

インドネシア：政策金利の据え置きを決定

据え置きは3カ月連続、通貨ルピアの安定と経済成長を重視

インドネシア中央銀行（BI）は12月17日、政策金利の据え置きを決定しました。据え置きは3カ月連続で、通貨ルピアの安定と経済成長の両立を目的としています。

BIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 市場予想通り、政策金利を4.75%に据え置き

金融政策の概要：

- BIは、12月17日に終了した金融政策決定会合で、政策金利（7日物リバースレボ金利）を4.75%に据え置くことを決定しました。据え置きは3カ月連続で市場の予想通りとなりました。今回の決定は、ルピアの安定性を維持しながら経済成長を支えるための措置であり、世界的な不確実性が続く中、インフレ目標（2.5%±1%）の維持を重視したものです。
- BIは昨年9月以降、累計150bps（1.50%）の利下げを実施し、現在の水準は2022年以来の最低水準です。今後の追加利下げについては、インフレ見通し、為替動向、金融政策の効果を見極めながら慎重に判断するとしています。

インフレ動向：

- 2025年11月のインフレ率は前年同月比+2.72%と、BIの目標レンジ内に収まっています。BIは、2025年・2026年ともに目標レンジ内で推移すると見込んでいます。

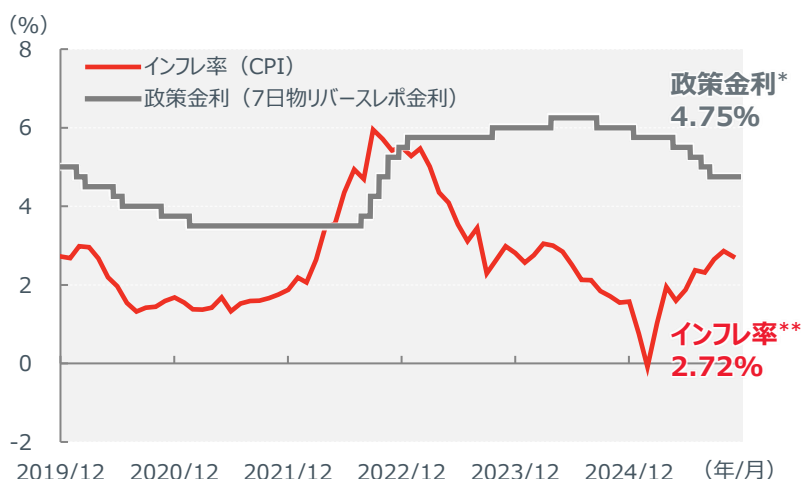
経済成長見通し：

- インドネシア経済は、国内需要の回復を背景に改善傾向を示しています。2025年の通年成長率は4.7～5.5%、2026年は4.9～5.7%と見込まれています。第4四半期は、政府の社会支出拡大や家計消費増加、製造業PMI（購買担当者景気指数）の改善による投資回復により、堅調な成長が期待されています。一方、輸出は鈍化が予測されており、米国向け前倒し輸出の終了や中国向け鉄鋼、インド向けパーム油の減少が要因です。また、今後の成長を支える鍵は、国内需要の一層の強化にあるとしています。

政策金利とインフレ率

政策金利*とインフレ率**の推移

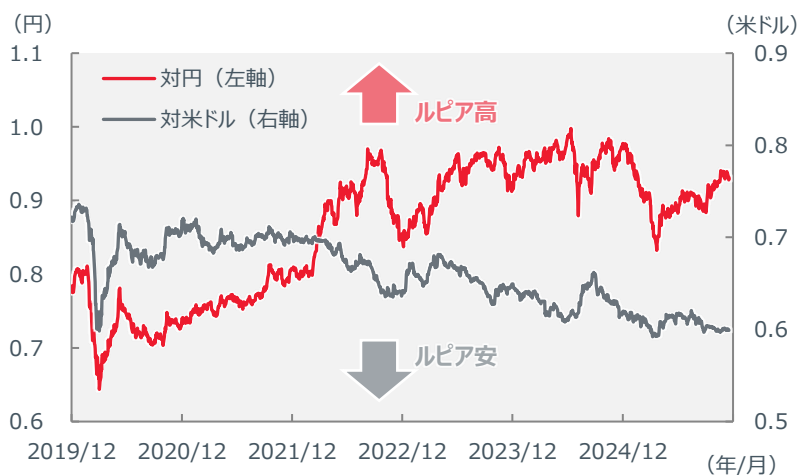
（2019年12月31日～2025年12月17日、日次）



為替

インドネシアルピア（対円、対米ドル）の推移

（2019年12月31日～2025年12月17日、日次）



○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

251218(03)

(1/2)

➤ 市場の反応と今後の見通し

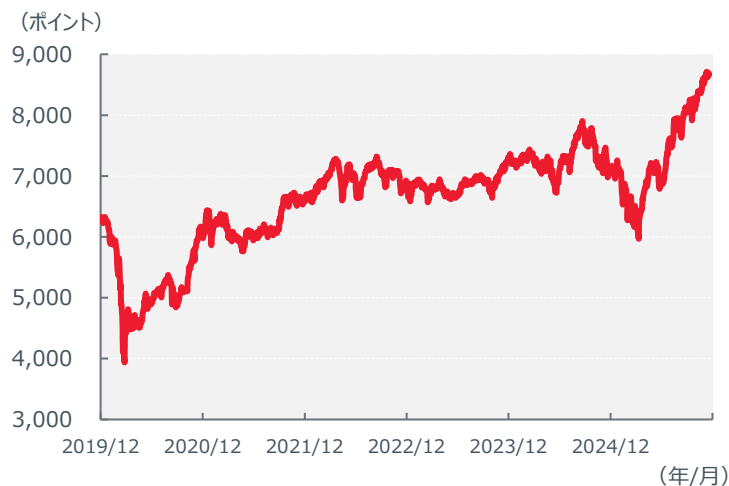
- 市場では、政策金利の据え置きが予想されていたため、今回の決定は想定内となりました。発表当日の17日、インドネシア株式市場（ジャカルタ総合指数）は前日比0.11%下落しました。債券市場では10年国債利回りが前日比-4bps（-0.04%）となり、為替市場では、ルピアは対米ドルで0.03%下落し、対円で0.37%上昇しました。
- BIは、ルピア安定化策として、NDF（ノンデリバブル・フォワード）およびDNDF（国内NDF）市場への介入を強化し、流通市場での政府証券（SBN）の購入を継続しています。また、信用拡大と流動性管理の強化を目的に、マクロプルーデンシャル政策***の最適化を進めています。さらに、デジタル決済インフラの整備や決済システムの統合を通じて、金融包摂と経済のデジタル化を支援する取り組みも継続しています。
- BIは、今後もインフレを目標レンジ内に抑えつつ、ルピアの安定を維持しながら、景気支援のために追加の政策金利引き下げを模索する姿勢を示しています。
- 当社は、今回の据え置きはこれまでの金融緩和策と同様に、緩和的なスタンスの表れであると考えています。今後、さらなる金融緩和の可能性はありますが、それはルピアが安定し、世界的な金利やリスクセンチメントなど外部要因がより好転した場合に限られると考えています。引き続き状況を注視し、中長期的な投資機会に基づいた運用を行ってまいります。

***金融システム全体のリスクの状況を分析・評価し、それに基づき制度設計、政策対応を図ることを通じて、金融システム全体の安定を確保する政策

株式

ジャカルタ総合指数の推移

（2019年12月30日～2025年12月17日、日次）

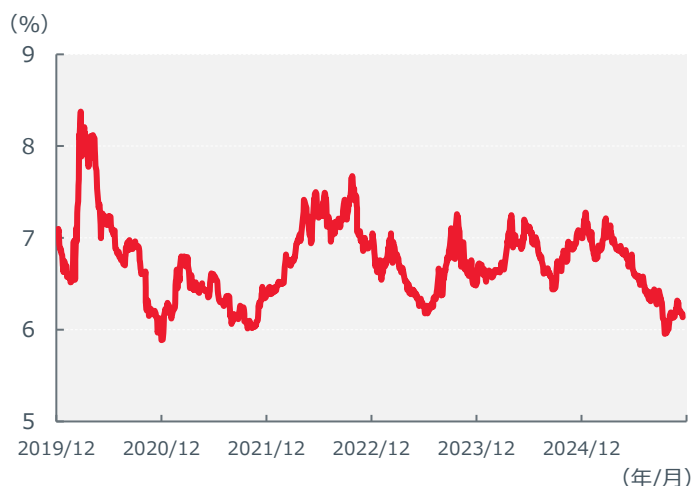


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

債券

インドネシア10年国債利回りの推移

（2019年12月31日～2025年12月17日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することとはご遠慮ください。